

— 中心市街地における課題（素案） —

①人口の減少 中心市街地の人口減少傾向には歯止めがかかってきたものの、市全体の人口は減少し続けている。
②空き店舗率の悪化 中心部では改善傾向であるものの、升形、天神橋通、菜園場を含む中心市街地エリア内の商店街での数値を見ると悪化傾向となっている。
③滞在時間が短い 中央公園地下駐車場の利用時間は、2時間未満が全体の8割を占めている。
④歩行者通行量の偏在化 中央公園の西側と東側、中心部と中心部をはさんだ東西の周辺部で通行量の差が見られる。
⑤コインパーキングなどの低未利用地の増加
⑥ネットショッピング利用者の増加
⑦外国人観光客の増加
⑧新図書館複合施設（オーテピア）、高知城歴史博物館の開館をひかえている。
⑨中心市街地には、日曜市をはじめとする街路市や、全国に広まったよさこいなど、貴重な観光資源がある。
⑩中心市街地への来街目的は「買い物」が最も多い。
⑪中心市街地の活性化に必要な取組については「空き店舗の解消」、「新しい店舗の導入、店舗の魅力向上」の二つが上位となっている。
⑫30代の層では、「子どもが遊べる空間や憩いの場の充実」を求める意見が多い。
⑬50代以上の層では、「公共交通機関の充実」を求める意見が多い。
⑭市外からの来街者は公共交通が不便と感じている。
⑮駐車場の整備や無料化など、駐車場に関する意見が多い。

現状分析

ニーズ調査

《 課題 》

課題1

中心市街地内での回遊性向上

○現行計画の進捗等により偏在化した来街者を、中心市街地エリアで回遊させる必要がある。

課題2

中心市街地外からの来街促進

○新図書館複合施設（オーテピア）や高知城歴史博物館のオープンを来街者増加の好機ととらえ、アクセスの向上も含め新たに生まれる人の流れへの対応が求められている。

課題3

人口減少・購買形態の変化に対応した商機能の強化

○今後も続くと予測される人口減に伴う消費者の減少や、ネットショッピングの利用増加に対応した商機能を強化する必要がある。

課題4

時間消費を促す空間の形成

○来街者がまちなかで快適に過ごし、滞留を促進させる必要がある。

課題5

住み続けたいまちづくり

○人口の減少傾向に歯止めがかかり、増加し始めた中心市街地の居住人口を維持していくために、快適で過ごしやすいまちをつくる必要がある。

課題6

観光資源の活用

○幕末維新150年をきっかけに、国内外の観光客の増加が見込まれることから、歴史性・文化性を生かした取組が必要である。
○クルーズ船の寄港や日本の地方都市への関心が高まっていることから、今後も増加が見込まれる外国人旅行者への対応が必要である。